

新建築あいち

2024.1月号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ (2022年4月～)

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■ 建まちセミナーin彦根アフタートーク会 & 忘年会

12月2日(土)、金山会所にて、彦根セミナーアフタートーク会を開催しました。セミナーに参加できなかった方々へ、参加者から気軽に伝えてもらい、皆で話しをして感想を言いあう企画です。参加者6名で、セミナーへ参加者された中森さん・甫立さんに、当日の充実した資料のスライドや現地写真を見せてもらいながら2時間ほどお話しを伺いました。

今年10月の建まちセミナーin彦根は、大阪や京都奈良など他支部の協力のもと、滋賀支部の方々が頑張って開催してくださったそうです。セミナーには滋賀支部が10名ほど参加されていたようで、資料も講師の方々も充実していた様子がよく分かりました。

彦根城に近い銀座商店街は、1961～1973年頃のRC造3階建の建物が町家のような区割で連なっていて、抜け道や入り組んだ造りで九龍城のようだったそうです。空間はおもしろくてポテンシャルは高そうでしたが、所有区分のあいまいな所もあり、漏水問題や上階へ直接行ける階段がないことなど多くの問題があるようです。そんな混沌とした中で、令和2年頃からヒアリング調査・現況調査など行いながら、商店街をプラットフォームに、彦根市・大学・外部支援専門家の方々等が連携して、学生さん達の提案や多様な人の関わりが生まれているそうです。学生さんの提案は、界壁や床スラブを一部切抜いて、横のつながりや吹き抜けをつくりながら活用するダイナミックな提案のようです。まずはそこから突出した人や、小さな拠点が生まれれば、可能性が広がっていくと思いました。

またその他のお話しでは、滋賀県は歴史的建造物・中世社寺建築の大変多いことや、彦根城天守の平成の保存修理の分かりやすい市のDVDを見たこと、大変資料が充実していて時間が足りないくらいだったそうです。

城下足軽組屋敷は、ちょうど特別公開期間だったそうで、カフェ・お茶席・資料館等があって多くの見物人で賑わっていたそうです。

企画のあと場所を移して、会員2名が合流して忘年会を行いました。1年前は考えられなかった蜜な空間で1年のトラブル話や今後の仕事のことなどで盛り上がりました。まだ集まる企画には懸念がある方もいらっしゃるのでもリモート併用での企画開催など改善が必要だと感じました。

中森さん・甫立さん、ありがとうございました！(黒野)



■ アフタートーク会&忘年会 参加者感想

- 彦根といえば城の印象が大きかったです。足軽長屋周辺は、以前にブラタモリで紹介されていて注目していたところではあったのですが、周りに広がる伝統的な街並みは目に入っていませんでした。「建築とまちづくりセミナー」には参加していないのですが、あらためて訪れてみたい場所になりました。

トーク会、忘年会とも、今後も随時顔を合わせる機会があるとよいですね。 (入谷 晃次郎)

- コロナ騒ぎ以降、なかなか、全国的な集まりに参加できていません。そんな中、彦根での建まちセミナーが「リアル」で開催できたこと。これも、また参加できせんでしたが、久しぶりのセミナー企画で「盛り込み過ぎ」の感があったようで、中森さんの報告は面白かった。彦根は何回も行っているところだが、報告のあったような所は知りませんでした。

支部で企画として、ゆっくりと行けると良いですね。 (福田 啓次)

- 今回紹介のあった彦根銀座商店街や旧足軽組屋敷群の東側にある京町に恩師が住んでいるので、学生時代よく遊びに伺っていました。その頃は、旧足軽屋敷群があることを知りませんでした。久々に学生時代の友人を誘い、恩師を訪ねながら彦根の町を歩きたいと思いました。銀座商店街のまちづくりについては、問題山積のようで、関わっている方々のご苦労を想像しただけで頭痛がおきそうでした。がしかし、皆さん根気よくひとつひとつ解決しようと取り組んでいることがよくわかりました。

(奥野 明美)

- 久しぶりのお店での忘年会でした。恐らく何気ない雑談が良いのでしょうか？今年一年色々ありましたが、来年はメンバーが増えて活性化できるといいですね。(中森 重雄)



特別 開館35周年記念

ガウディとサグラダファミリア展

開催期間:2023.12.19(火)——
2024.3.10(日)

会場:名古屋市美術館

開館時間:9:30-17:00

2月23日を除く金曜日は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日:月曜日

【1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)は開館】
12月29日(金)~1月3日(水)
1月9日(火)、2月13日(火)

本展では、140年以上の時を経ていよいよ完成への道が見えてきたサグラダ・ファミリア聖堂にスポットを当て、100点を超える図面や模

型、写真、資料、さらには最新の映像をまじえながら、サグラダ・ファミリア聖堂の造形の秘密に迫り、ガウディ建築のオリジナリティを明らかにします。

■「遠距離介護と生活資本」～居住福祉と生活資本の構築(159)

岡本 祥浩

俳優の柴田理恵さんが富山県で一人暮らしの母を遠距離介護で支えている。その体験を『遠距離介護の幸せなカタチ』（祥伝社、2023年11月）にまとめている。そこで一人暮らしの母の生活の支え方が述べられ、あたかも母の「生活資本を構築」しているようである。本稿で柴田さんの母親遠距離介護から「生活資本」を考えてみたい。

柴田さんが「遠距離介護」を選択する理由の一つに「母の大事なものはすべて富山にあるから…」という思いがあった。それは「母は長く小学校の教師を務め、退職後は子どもたちや地域の人たちにお茶や話を教え、ご近所付き合いを楽しみ、お酒もよく嗜んでいた」ということだった。富山に「大切な友人や知人がたくさんいるし、やりたいこともある」ということだ。それらを「断ち切って東京でゼロから人間関係を築くことなどあり得ない。見知らぬ土地で孤独に陥るのが目に見えている」。

柴田さんは、母の暮らしは「生きがい为目标とし、励みにすれば」構築できると納得した。柴田さんは、正月を母と自宅で過ごしたそうだが、その時母は「やっぱり、家で暮らしたい」と口にしたそうだ。その言葉は、「家」が人の暮らしの拠点になっていることを如実に表しているように思う。

病で倒れた母が「家」で暮らせるように、環境を整えなければならない。柴田さんは「ケアマネジャー、ヘルパー、担当医などとチームを組み、ベッドや手すりやなど」を整えた。空間が生活の基盤になる。「いらぬものを捨て、必要なスペースを確保するために家具などを移動させ、食器などの台所用品も良く使うものをコンパクトに収納」した。

空間の次は、生活を支える介護・医療や生活支援の仕組みの導入だ。本書では「地域包括介護支援センター」がその導入に効果的な機能を果たすと、紹介されている。「遠距離介護チーム」の編成には多分、母の近くに住むいとこのヒトシくんがキーパーソンとして重要な役割を終始果たしていることが想像に難くない。空間の整備と生活を支える社会的仕組みの適切な融合が柴田さんの母の生活資本を構築させたに違いない。

遠距離介護の導入という生活の大転換ができたことは、「生活資本」を再構築できる空間の規模と質だったということをおぼえてはならないし、それまでの生活で培ってきた人間関係や社会的仕組みの存在も忘れてはならない。生活は途切れずに常に継続している。介護や支援を受けていなかった頃の生活を踏まえた介護・医療や生活支援の構築が、望ましいことがこの事例から分かる。「生きがい」を実現する生活の連続性が当事者に変化への対応力を与えてくれた。つまり、現在の生活は将来必要な仕組みを受け入れる余裕を持つべきだということをおぼえて柴田さんの体験から考えさせられる。

（中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員）

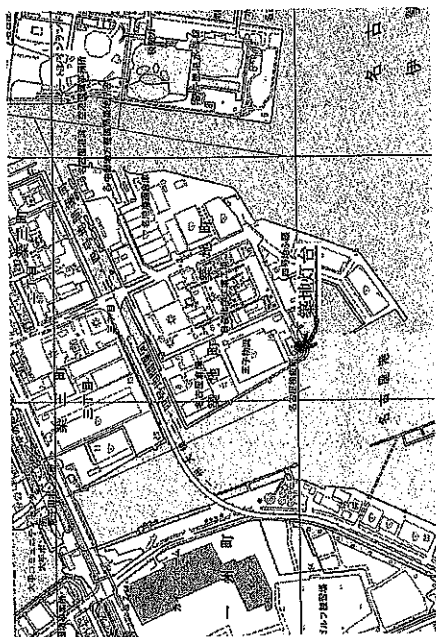
歴史探訪シリーズ ③② 港区

名古屋最古の灯台 築地灯台

港区築地町4号地の西南隅、名古屋検疫所敷地内に、高さ10皿にも満たない小さな灯台が残されています。

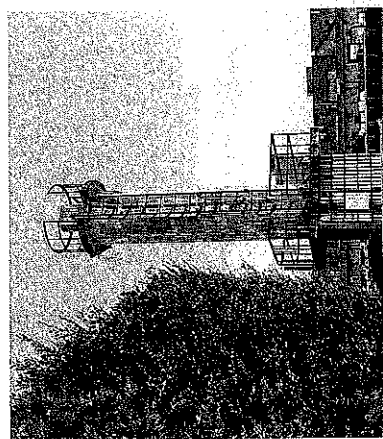
名古屋港は、その建設が始まった1898年頃から順次埋立工事がすすみ、1903年6月にはこの4号地の埋立工事が完了しました。また、熱田港から名古屋港と名前を変え、開港場に指定されたのは1907年でした。初めて大型船が入るといので、次第に施設を整える必要があり、この灯台もその一貫として1908年に建設されました。

最初の構造は木造四角型白色のものでありましたが、1957年7月に改築され、



木造をコンクリート造八角型に改め、下部は白色のタイル張りとなりました。また、北側には小さな入口扉が取り付けられています。

この辺りは、今では名古屋を支える大工業地帯となっていますが、戦争中は軍需工場が多く、特に10号地、11号地は軍用機の試験飛行場となっていたことから、戦争の被害を大きく受けたところでもありましたが、幸いこの灯台は被害を受けることはありませんでした。この地域の町名に合わせ、建設されて以来築地灯台と呼ばれ、岸壁の位置を知らせて、航行の安全を守る役割を果たしていましたが、1969年11月にその役割を終えました。途中改築されているとは云え、名古屋港に残されている、最も古い灯台であることには変わりありません。



名古屋港最古の灯台 築地灯台

■ 第34回全国大会 2023年11月25日（土）報告と参加者の感想

□11月25日（土）新建全国大会へ代議員としてリモート参加しました。北海道から沖縄まで60名ほどの参加でした。片方さんのあいさつからはじまり、代議員39名中30名・支部25支部中18支部の参加で大会が成立しました。議案説明は福岡・片井さん、京都・川本さん、東京・岡田さんにしていただき、大会議案と別に、特別議案2つ（大阪万博・ガザ）が出されました。決算・予算説明は大阪・大槻さん。その後、7つの分散会（8名程）にわかれて1時間程、議案討議など行いました。私の分散会3では、宮城で公営住宅の廃止がすすめられていること、京都での山辺に要塞のようなマンション開発、各地域の省エネのことなどが話題にあがりました。

全体会にもどって、愛知・甫立さんが次世代の方に入会してもらえるよう皆で話し合いたいとおっしゃったことや、東京・岡田さんの新建ゼミの報告が印象に残りました。以下6点ほどでした。

① 建築だけでなく他業種も一緒に ② 遠くからでなくその地域の方で ③ 事業を組み立てる能力をもつ ④ 地域の人と関係する ⑤ 行政といっしょになって（反対でなく） ⑥ 職能を議論する場をつくる。その他、建築費高騰、住宅は家電のようになってきた、大阪ひらかた、公共の土地が民間へ売却される、地域の組長さんを仲間にプロジェクトする、職人さんの労賃が上がらないこと、札幌オリンピック、神宮問題、福岡天神ビッグバン再開発など……。また沖縄の方も3名（福岡支部1名・京都支部2名）いらっしゃることを知ることができました。

最後に、リモート投票にて議案・役員など採決されました。まとめのあいさつは乾康代さんで、建築とまちづくりを、技術だけでなく社会問題として捉えている大切さを強調されていました。ひさしぶりの全国大会でしたが、10時～17時があつと言う間で、リモートでの進行も別室移動もスムーズで、待っている方々はギター談義も。全国には会員632名もいて心強い！と思いました。準備に携わられた皆様、お疲れ様でした。（代議員：黒野 晶大）

□全国大会へ参加をしましたが、やはり顔の見えるリアルな会議の方が元気をもらえますね。議案についての補足も大切ですが、全国の支部が元気に活性化されて、自分の地域で「建築とまちづくり運動」をされるにはどうしたらよいかを考えた1日でした。また、「今後の新建50年」を考えた場合の、次世代につながる先のことを議論していく必要があるとおもいます。

（オブザーバー：甫立 浩一）

□全国大会に参加をしてきました。今大会は、前回に引き続き ZOOM を使った WEB 会議方式です。段々と WEB が日常になってきました。WEB 会議では、淡々と報告があり、雑談をすることもなく、終わってしまいます。効率的ではあるが、そろそろ次回の大会は、リアルが良いですね。

（オブザーバー：中森 重雄）

□全国大会というのは、かつては、参加すると明日からまた各自で仕事をがんばってゆこう、明日へ向けての元気が出る場所なのだ、と聞いたことがあります。

私は、といえば、どちらかというとな消極的な参加、「11月25日の予定はどうですか？～多分空いています。～では、全国大会の代議員をお願いします。～わかりました。」という流れでの参加となっており、気持ちとしては、議案に賛成することが最大の目的、代議員としての役割を果たす、という心理的には低めのハードルで参加しました。

オンラインでの議事進行は、準備する方は結構下準備が大変だったのでは、細かい事前調整が大変だったのではないかと、思う一方、議案については、事前に愛知支部の幹事会で確認していたので、正直なところあまり印象に残っていない・・・というのが正直な感想になります。

印象に残ったところは、閉会前のあいさつの内容の一部、確か乾さんのあいさつで、新建を知ったきっかけ、新建に入会したきっかけのような内容でした。「学生時代のこと、建築だけではなく社会問題に目をむけて、建築とかかかわっている団体があることを知り、共感して入会した」という旨のことを聞きました。これを聞いて、確かにそうだったよな、と新建の活動を知った10数年前のことを思い出し、日々の業務に流されながら思考停止におちいつているのかもしれないな、と少し考えるところがありました。

この会議に参加した全国の皆さんはどのように思ったのでしょうか。「明日へ向けての元気が出る場所」になったのか、気になるところです。
(代議員：入谷 晃次郎)



■ 新建愛知支部 2023年11月 支部幹事会だより

11月15日(水) 19:00~21:00 (オンライン)

リモート参加者/入谷、奥野、黒野、中森、福田、壬生、甫立

- (1) 11/25(土) 第34回新建全国大会がオンラインで開催します。議案への意見を募集します。
- (2) 来年は、集まれる企画をみんなで考え、顔を見て交流のできる支部にしようと話しました。
- (3) 12/2(土) 支部企画(彦根セミナー報告)を金山会所で行い、その後、外部で忘年会をします。
- (4) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織化検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
- (5) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
- (6) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
- (7) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします。

今後の幹事会は、12月20日(水)・2024年1月17日(水)・2月21日(水)午後7時と決めました。



■ 愛知支部事務局・財政からのお願い

新建会費『2023年後期分』の請求書をメールでお送りしています。

2023年前期末納の方には、2023年後期分と合わせて請求させて頂いています。

※ 振込手数料は、各自でご負担をお願いします。 ご協力を宜しくお願い致します。